

2023年卒
Vol.09

7月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年7月発行)

2023年卒業予定者の採用選考が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は8割台半ばに達していることがわかった。

前年同時期調査との比較や、先月調査(6月調査)からの変化に着目して、ここまでの活動状況を分析したい。

1. 7月1日現在の内定状況

- 内定率は84.9%。前年同期実績(80.1%)を4.8ポイント上回る
- コロナ禍前の2020年卒者(84.0%)をやや上回った
- 就職活動終了者は全体の74.6%。継続者は25.5%

2. 7月1日現在の就職活動量

- 一人あたりのエントリー社数の平均は26.9社。前年同期(29.1社)より2.2社減
- 企業セミナー参加社数は前年より約1社増加(16.1社→17.0社)
- ES提出(15.2社)、筆記試験(10.7社)は減少し、面接試験は前年と同数を維持(9.2社)

3. 就職活動継続学生の動向

- 選考中企業1.8社、これから受験予定1.5社。前年・前々年を下回る
- 「新たな企業を探しながら、幅広く企業を広げる」が6月より大きく増加(25.4%→30.3%)
- 企業を探す手段は「就職情報サイト」が最多(78.7%)。「新卒紹介サービス」が次点

4. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は前年に引き続き、文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多
- 就職活動開始当初からの第一志望に決めたのは3割強(36.8%)

5. 就職決定企業の内定者集合

- 調査時点で「内定者集合があった」33.3%。前年同期調査(32.3%)と変化なし
- 対面での参加が前年より大きく増え、約半数に(18.1%→49.2%)

6. 就職環境への考え(売り手市場の実感)

- 売り手市場だと感じる学生は全体の4割強(43.0%)。コロナ禍前に迫る

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

- 調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,207人(文系男子389人、文系女子373人、理系男子311人、理系女子134人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2022年7月1日~5日
サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は84.9%。前年実績(80.1%)を4.8ポイント上回る高い数字を記録した。ただ、4月時点では前年同月との差は8.3ポイントあったが、月を追うごとに差は縮小し、今回さらに縮まった(8.3ポイント差→6.6ポイント差→5.1ポイント差→4.8ポイント差)。

コロナ禍前とも比較してみると、2020年卒者の7月の内定率は84.0%だったので、コロナ禍前の水準をやや上回る。選考解禁が6月になった2017年卒以降で、7月としては最も高い数字となった。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは82.7%。6月調査(63.1%)から20ポイント近く上昇した。選考解禁を迎え、本命企業の結果が出たことで、活動を終える学生が多かったことがわかる。

なお、内定取得学生の多くが複数の企業から内定を得ており、内定社数の平均は2.5社に上る。

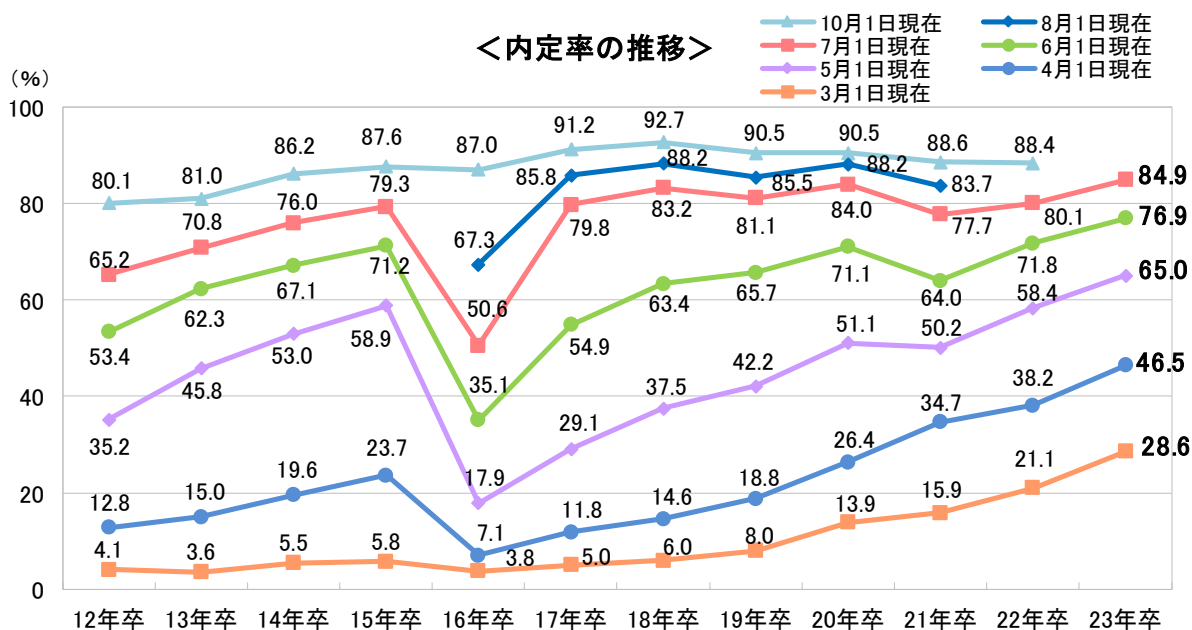
<7月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		84.9 (80.1)	84.3 (76.5)	84.2 (84.5)	83.9 (79.5)	91.0 (80.8)
内定なし		15.1 (19.9)	15.7 (23.5)	15.8 (15.5)	16.1 (20.5)	9.0 (19.2)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	82.7 (79.8)	80.5 (72.2)	78.3 (74.4)	87.4 (90.7)	90.2 (88.6)
	活動は終了したが複数内定保持	12.2 (3.9)	14.0 (4.3)	15.9 (5.2)	8.0 (2.2)	6.6 (2.9)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.9 (0.5)	0.6 (0.3)	0.3 (0.0)	1.9 (1.5)	0.8 (0.0)
	就職活動継続	4.2 (15.8)	4.9 (23.1)	5.4 (20.4)	2.7 (5.6)	2.5 (8.6)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.5 (2.3)	2.6 (2.4)	2.6 (2.4)	2.5 (2.1)	2.5 (1.9)

※ () 内は前年(7月1日現在)の数値



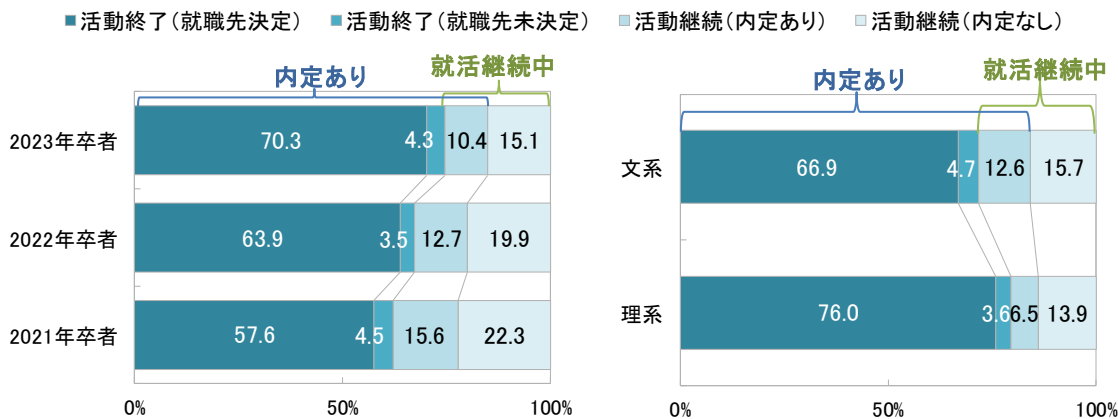
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~23年卒は6月 ※15年卒以前と22年卒は8月のデータはなし

回答者全体を分母にして活動状況を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 70.3%。複数内定を保留しているなど就職先未決定である者 (4.3%) を合わせると、終了者は 74.6%。活動継続者は「内定あり」(10.4%)、「内定なし」(15.1%) を合わせて 25.5%。

これを文理別に見ると、文系は内定保持者も含め 3 割近く (計 28.3%) が継続中と回答。先月調査 (計 52.0%) より大きく減少したものの、理系 (計 20.4%) に比べ継続率は依然高い。

【3カ年比較】

【文理別】



2. 7月1日現在の就職活動量

7月1日現在の就職活動量 (活動社数) を表にまとめた。

これまでの一人あたりのエントリー社数の平均は26.9社。3月の解禁時点から一貫して前年同期実績を下回っており、企業を絞り込む傾向が強まった。一方、企業セミナーの参加社数は前年より約1社増加 (16.1社→17.0社)。オンライン中心で参加しやすいといった事情だけでなく、興味のある企業を厳選してエントリーしたことで、意欲的に参加したという面もありそうだ。

エントリー社数の減少に伴い、エントリーシート、筆記・適性テストなど、選考の入口部分もやや減少したが、面接試験は前年同数を保っている (9.2社)。面接に至る前の選考の通過率が高まったことが読み取れる。

<7月1日現在の就職活動の状況 (活動社数)>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー	26.9	29.1	34.6	28.4	17.3	22.3
企業単独開催セミナー参加	17.0	16.1	18.9	20.0	12.2	14.3
エントリーシート提出	15.2	16.4	18.2	16.1	11.1	13.1
筆記・適性テスト受験	10.7	11.4	13.0	10.8	8.2	9.8
グループディスカッション受験	3.0	3.0	3.1	3.1	2.9	2.5
面接試験受験	9.2	9.2	10.7	9.8	6.9	8.0
うち、最終面接	3.3	2.9	3.5	3.3	3.0	3.3

※それぞれ経験者を分母に平均社数を算出。(最終面接社数は、面接試験を受けた者を分母に再集計)

※オンライン形式も含む

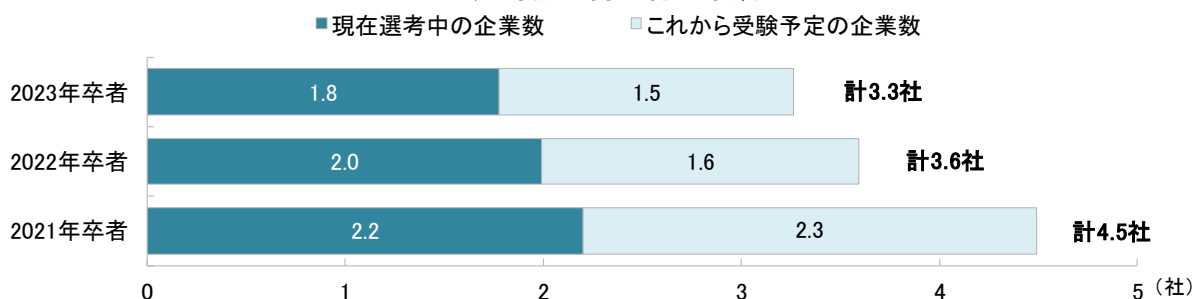
3. 就職活動継続学生の動向

内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生（モニター全体の25.5%）の、現在選考中の企業数は平均1.8社。これから受験予定の企業数1.5社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は3.3社。前年・前々年を下回る。

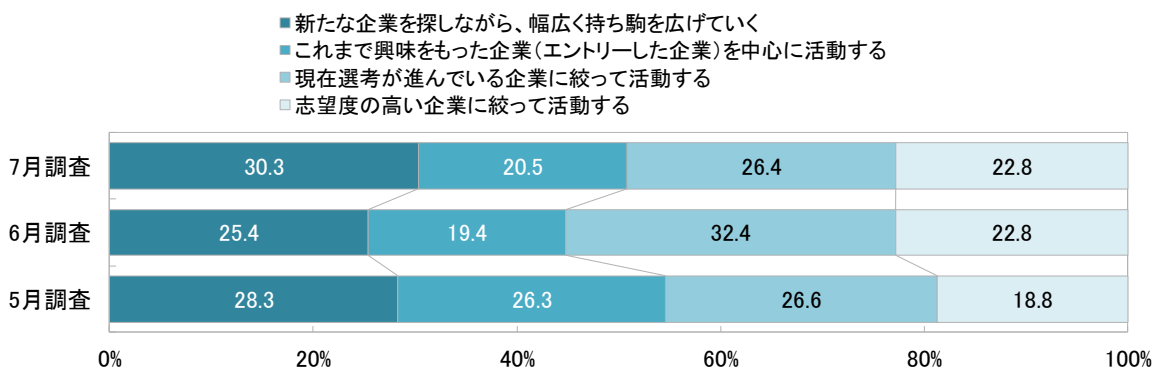
今後の方針・戦略について、3カ月間の推移を見てみると、6月調査では「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が3割超で最も多かったが、7月は2割台に減少。代わりに「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が増えた（25.4%→30.3%）。持ち駒企業が減る中で、夏採用などに向け、視野を広げて仕切り直そうとする動きが見られる。

3月時点では半数以上の学生が業界トップや大手企業を目指していたが（計52.0%）、7月調査では計30.0%まで減少した。一方で「規模にこだわらずに活動する」割合が徐々に増えていたが、6月から7月にかけて大きく増加し、過半数を占めた（56.0%）。志望先に変化が出てきた様子がわかる。

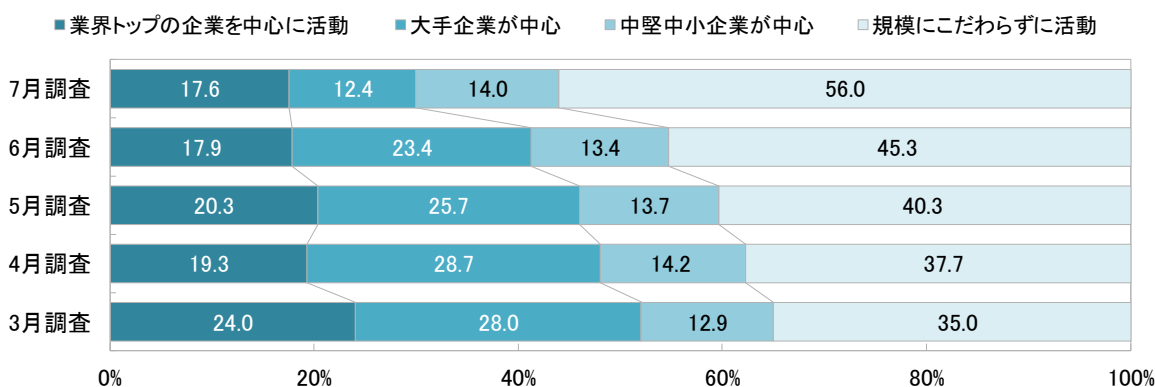
＜7月時点の持ち駒企業数＞



＜今後の就職活動の方針・戦略＞

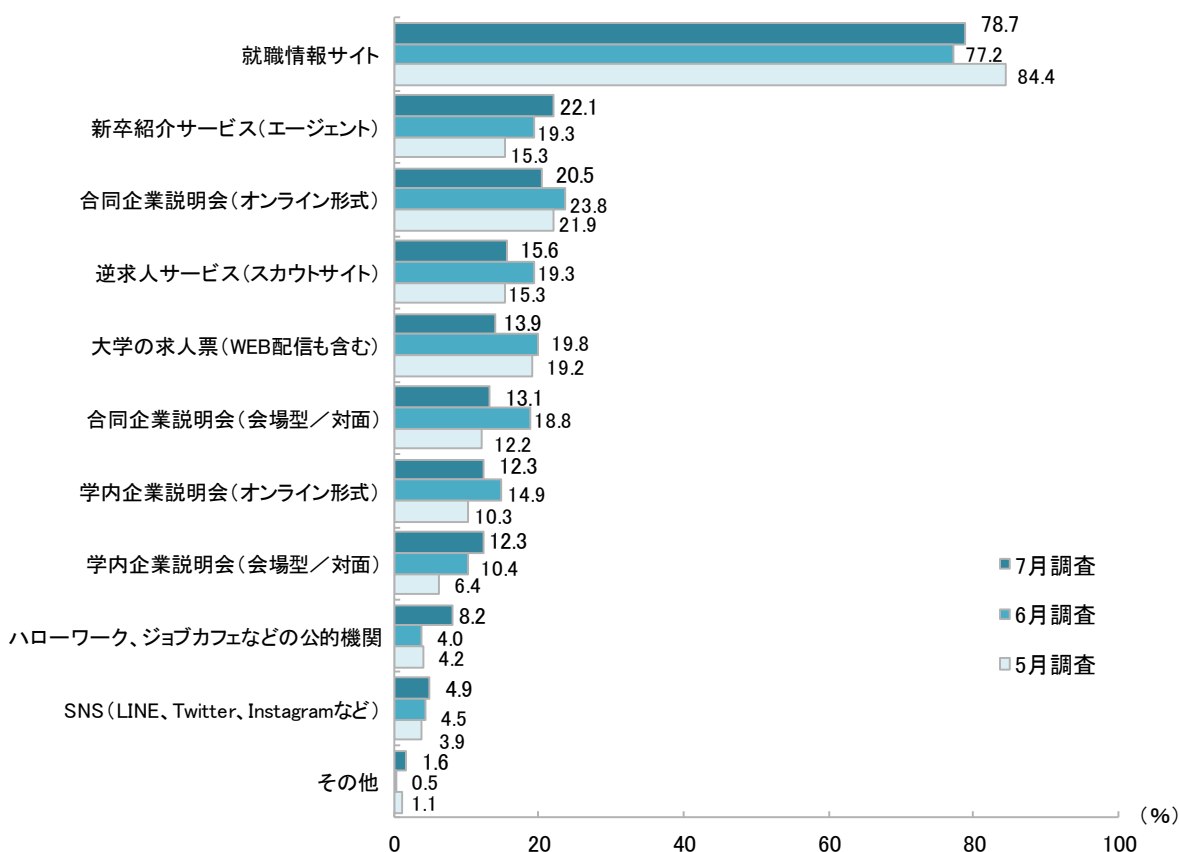


＜就職活動の中心としている企業規模＞



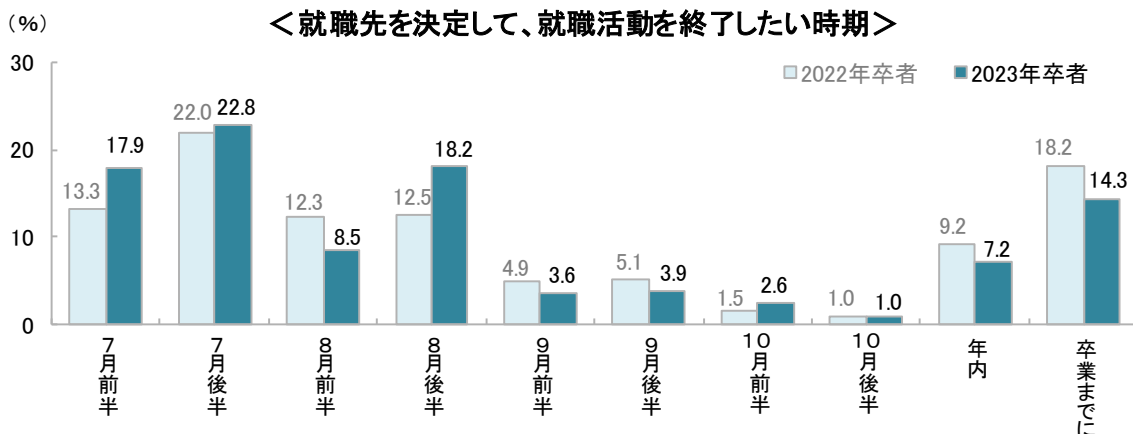
新たな企業を探す手段（ツール）を尋ね、3カ月の推移を比較した。「就職情報サイト」はどの月も圧倒的に多く、8割前後が選択している。「新卒紹介サービス（エージェント）」が月を追うごとに増加し、この7月調査では2位になった（15.3%→19.3%→22.1%）。就職情報サイトに公開されている企業を広く探す一方で、後半戦を迎えたことで、より自分に合う企業をピンポイントで見つけたいと考える学生が増えているとみられる。

＜新たな企業を探す手段＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、前年調査と同様に「7月後半」が最も多い（22.8%）。7月前半から8月後半までを合わせると6割を超え（計67.4%）、継続学生の多くが夏のうちに決めたいといと考えていることがわかる。一方で、4人に1人（計25.1%）は10月1日の正式内定日にこだわらず、長期戦を想定しているようだ。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



4. 就職決定企業の属性

就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 70.3%）の就職決定企業について確認したい。まず、就職決定企業の業界を見ると、文理ともに「情報処理・ソフトウェア」が今年も 1 位。特に文系では 13.5% を占め、集中している。文系の 2 位は前年同様「銀行」。3 位の「建設・住宅・不動産」は前年 6 位から、4 位の「調査・コンサルタント」は前年 11 位から大きく順位を上げた。

理系の 2 位は「電子・電機」で、3 位「建設・住宅・不動産」、4 位「素材・化学」と続き、上位業界に変動は見られず、定番化している。

<文系>

2022年卒者		%	2023年卒者		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.8	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.5
2位	銀行	9.5	2位	銀行	7.8
3位	商社（専門）	6.0	3位	建設・住宅・不動産	5.9
4位	運輸・倉庫	5.1	4位	調査・コンサルタント	5.7
5位	保険	4.4	5位	商社（専門）	5.5
6位	建設・住宅・不動産	4.2	6位	運輸・倉庫	4.3
	その他サービス	4.2	7位	官公庁・団体	3.7
	マスコミ	4.2	8位	マスコミ	3.5
9位	電子・電機	3.7	8位	電子・電機	3.5
	人材サービス・人材紹介・人材派遣	3.7	10位	その他サービス	3.3

<理系>

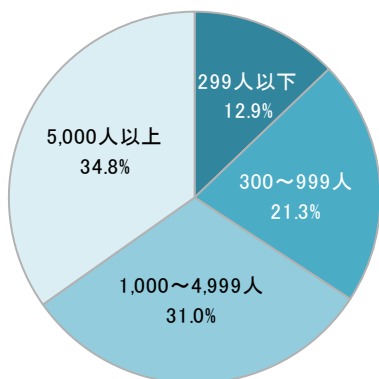
2022年卒者		%	2023年卒者		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.4	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.7
2位	電子・電機	11.9	2位	電子・電機	10.1
3位	建設・住宅・不動産	11.6	3位	建設・住宅・不動産	9.5
4位	素材・化学	6.8	4位	素材・化学	8.9
	機械・プラントエンジニアリング	6.8	5位	自動車・輸送用機器	8.0
6位	医薬品・医療関連・化粧品	5.4	6位	機械・プラントエンジニアリング	5.6
7位	自動車・輸送用機器	5.1	6位	エネルギー	5.6
8位	エネルギー	4.8	8位	調査・コンサルタント	5.0
9位	調査・コンサルタント	3.6	9位	情報・インターネットサービス	4.1
	通信関連	3.6	10位	医薬品・医療関連・化粧品 精密機器・医療用機器	3.6

※上位10業界を掲載
※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

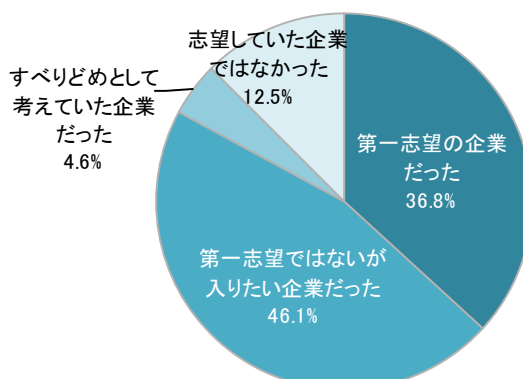
次に、就職決定企業の従業員規模の比率を見てみたい。「1,000人～4,999人」と「5,000人以上」を合計すると 6 割強に上り（計 65.8%）、従業員 1,000 人以上の大手企業に決める学生が大半を占める。

また、就職活動開始当初の志望度を尋ねたところ、「第一志望の企業だった」という回答が 36.8%。ここに「第一志望ではないが入りたい企業だった」（46.1%）を合わせると 8 割を超える（計 82.9%）。現時点で就職先を決定した学生の多くは、当初の希望をかなえ、満足のうちに就職活動を終了したものと推測できる。

<就職決定企業の従業員数>



<就職活動開始当初の志望度>



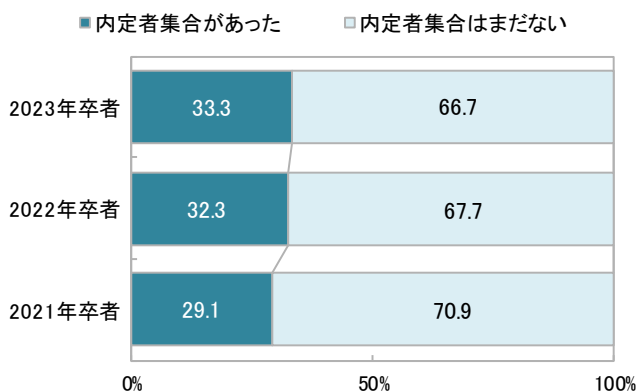
5. 就職決定企業の内定者集合

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、内定者集合について尋ねた。

調査時点で「内定者集合があった」という回答は3割強(33.3%)。前年同期調査とほぼ同率だったが、参加形式に大きな変化が見られる。前年はオンラインが中心で、その比率は8割を超えていたが(81.9%)、今年は対面が大きく増え、約半数を占めている(18.1%→49.2%)。コロナ禍で採用活動のオンライン化が進んできたが、感染状況が比較的落ち着いていたこともあり、内定後のフォローについては対面での実施に踏み切る企業が増えたのだろう。

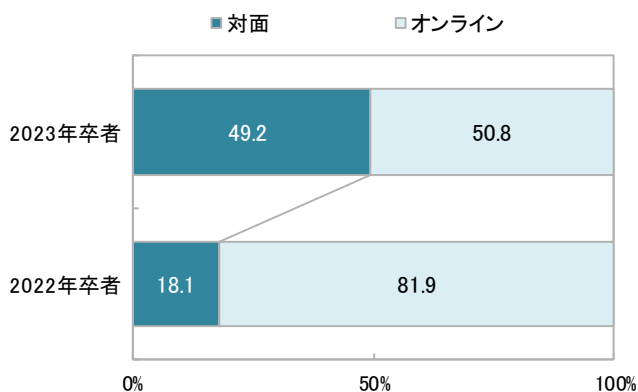
参加した学生からは、オンラインか対面かに関わらず、社員との懇談を通して社風や仕事への理解を深めたり、内定者同士のレクリエーションを通して親交を深めたりした様子が多数報告されている。

<就職決定企業の内定者集合の有無>



※各年7月調査

<内定者集合の形式>



■内定者集合の内容

【対面】

- 東京本社にて、内定者10人程度と社員4名ほどで2時間半ほどの食事を交えた懇親会。 <非鉄金属>
- 事務系内定者の半数が集まり、自己紹介やオフィスツアーをした。 <通信関連>
- 東日本と西日本組に分かれて行われた。内定通知書の受け渡しと、その後に懇親会が行われた。 <運輸>
- 社員の方との座談会や、内定承諾の手交があった。また、内定者同士で食事会もあった。 <精密機器>
- 内定者と若手社員(1、2年目)との交流会。 <証券・投信・投資顧問>

【オンライン】

- オンラインでの交流会。性格適性検査の結果が返却され、それをもとに内定者同士で自分の性格を紹介し、入社後の意気込みを語る。社員に対する質問会、今後のイベントの告知もあった。 <輸送用機器>
- 内定者交流会という名目で、内定者同士の自己紹介やミニゲーム、先輩社員のお話などがありました。 <フードサービス>
- 1年目社員から、どのように就職先を決定したかのアドバイスももらえる機会。 <電子・電機>
- 企業側が手配してくれた共通の昼食を皆で食べ、自己紹介や質問、役員の挨拶といった内容。 <輸送用機器>
- 6年目と8年目のエンジニアとの座談会。 <情報処理・ソフトウェア>
- 会社の人事部の方10名弱と内定者30名程度で開催。全員で自己紹介、乾杯(自分で飲み物用意)、ブレイクアウトルームで少人数座談会を2回。 <総合商社>
- グループワークでは内定者との親睦が深められた。講談では社会人となる上での心構えや企業の現状について知る機会があり、参加して良かったと感じました。 <精密機器>

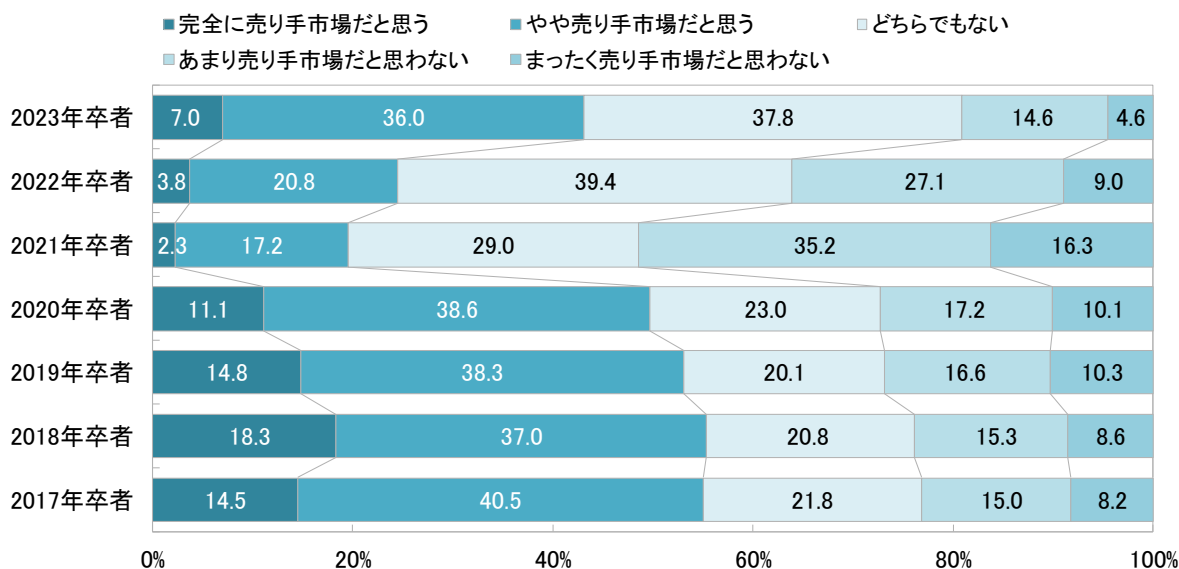
※<決定企業の業界>

6. 就職環境への考え (売り手市場の実感)

就職活動を通して、自分たちの就職環境をどう捉えているのかを全員に尋ねた。

「完全に売り手市場だと思う」「やや売り手市場だと思う」を合わせると 43.0%。前年調査(計 24.6%)より 18 ポイントあまり増加し、コロナ禍前(2020 年卒以前)に近づいている。売り手市場だと思う理由として、内定の得やすさや、囲い込みなどの企業側の姿勢を挙げる声が目立った。

＜就職環境への考え(売り手市場の実感)＞



■就職環境への考え

【売り手市場だと思う】

○コロナで採用人数を絞っていたせいか、今年から採用人数が増えたように感じる。周りも早く終わった印象。

＜文系女子＞

○内定の取りやすさという意味では完全に売り手市場だと思う。

＜文系男子＞

○理系ということもあり、企業に特別なこだわりを持たない限り就職先は見つかる状況と感じた。

＜理系男子＞

○基本的に企業が囲い込みをしてくるので、ある程度は売り手市場なんだと感じた。

＜文系男子＞

○就職活動は大変なイメージがあったが、私も周りの友達も行きたい業界・企業から内定をもらっているから。

＜文系女子＞

○少ない応募で内定を得ることができたから。

＜理系男子＞

○最近になって、選考を受けていなかった大手上場企業から選考の案内がたくさん来るから。

＜理系女子＞

【売り手市場だと思わない】

○学生が有利と感じるような経験はしていないため。

＜文系女子＞

○色々な選考を受けていく中で、やはり企業側が有利だと感じざるを得ない場面が多々あった。

＜文系男子＞

○大手企業は常に買い手市場だと感じた。

＜理系男子＞

【どちらでもない】

○業界によって大きく差がある。売り手市場の業界と買い手市場の業界の差は、かなり大きい。

＜文系男子＞

○企業を選ばなければ学生に有利かもしれないが、本当に行きたい企業にマッチングできるわけではないから。

＜理系男子＞

○内定を早々に得ている学生もいる一方、私のように内定を得られない人も居るのでどちらとも言えないと思う。

＜理系女子＞